

東武鉄道・東京メトロの和光市駅南口にある駅前トイレが、市とネーミングライツ(命名権)契約を結んだ企業により快適なトイレに生まれ変わり、8日に開所セレモニーが行われた。市

は命名権を提供する代わりに、トイレの改修と平成29年3月末までの衛生管理などを無報酬で委託。公衆トイレでネーミングライツの手法が導入されたのは県内で初めて。(石井豊)

洋式化にLED照明、衛生管理…

税金かけず 快適駅前トイレ

市によると、同トイレは大便秘5基のうち3基が和式で、洋式化の要望が多かった。厳しい財政事情の中、導入したのがネーミングライツによる改修。昨年5月、「快適な環境空間の創出」を条件に提案型の募集を行った。

2社が応募し、トイレの衛生管理などを行う「CSリレーションズ」(越谷市)に決定。「トイレ診断士」の社内検定が厚生労働省の認定を受けている「アニメテイ」(横浜市)のフランチャイズで、5人のトイレ診断士を抱えている。

CS社は駅前トイレの名称を「和光市駅前 トイレ診断士の殿堂」と命名。同社の負担で便器の

洋式化、照明のLED化など同トイレをリニューアル。29年3月末まで毎月2回パトロールし、維持管理などに努める。市の試算によると、同社の負担は総額約500万円に上る見込みだ。

同社の増田恭章社長(47)は「ネーミングライツは企業名を付けることが多いが、トイレ診断士を社会に認知してもらうために命名した。臭い、暗い、怖い、汚いの4Kと言われる公衆トイレを、少しでも快適にしたい」。市政課は「ネーミングライツは事業者と市が互いに得をする関係。お金をかけずに市民に快適な空間を提供するために、今後もこの手法を取り入れたい」と話している。

和光市がネーミングライツ



ネーミングライツでリニューアルオープンした「和光市駅前 トイレ診断士の殿堂」 = 8日、和光市本町